

一都市に落語の風景を

落語空間おちばプロジェクト



路地裏に現れる『死神』の落語空間
 有楽町の路地裏に、落語の世界に没入してしまう落語空間を生み出す。古典落語『死神』を連想させる死神の装束や浮き出るあばら骨、実体の無い透明感、そして物語終盤の舞台である洞窟へと結びつく氷柱を、空間全体で表現した。
 華奢な19mmアルミパイプで組んだフレームに布をかけ懸垂垂面とし、客席を取り囲む。高座は

反対にカテナリアーチとして落語家の浮遊感と緊張感を演出した。なお施工時は逆向きで寒冷紗を張って曲面を整え、澱粉糊で固めることでアーチ形状を成立させた。



落語没入体験が繋ぐ秋夜のコミュニティハブ
 秋の夜風を感じながら落語を堪能できる公演を企画した。前半は体験ワークショップ（笑ってみ亭じゅげむ）として、落語の仕草を真似したり、参加者が落語家になりきり自作の小噺を披露したりした。会場は愛ある笑いに包まれ、落語が日常と馴染み深いものであると実感する。後半は打って変わって、真打落語家・春風亭昇吉による古典落

語『死神』。洞窟と蠟燭を思わせる点群映像の出囃子に始まり、風に晒され空間を舞う布は死神の解像度を高め、あるいは蠟燭の火が消えるシーンとリンクして、圧巻の演技と落語空間の共鳴が新たな没入体験を生んだ。
 公演後は、交流を経た来場者同士の会話で賑わい、落語を通じたコミュニティハブの萌芽を見た。

vol.2 秋季公演「死神 一おちば唱着て有楽町一」
 2024年9月14日（土）開催
 場所：Slit Park YURAKUCHO
 出演：春風亭昇吉（落語家）
 笑ってみ亭じゅげむ（笑い教育家）
 内容：落語ワークショップ+古典落語『死神』
 来場者数：35名
 支援総額：200,500円（CAMPFIRE+ 当日券）

企画・設計：中山 亘
 演奏：飯田紅葉 / 映像：田川直樹 / 構成：木村 真生 / 広報：堀江優菜、安西里織 / 撮影：中川 豊 / グラフィック：沼口佳代 / 設計：高橋侑臣、本多響、仲西風都、野中智仁、中川巧大
 協力：Slit Park 事務局、株式会社 SpAcE、一般社団法人 ASIBA、NOFF

落語空間おちばとは
 おちばとは、都市に落語没入空間【落ちの場】をデザインし、街なかに落語が溶け込んだ日常を描くプロジェクトである。かつて道端での小噺から始まった落語の原風景を現代都市に再現することで、新たな都市体験を創出する。
 落語を通して都市を体感することで街の人々の振る舞いにひとつまみの“だらしなさ”が生まれ、愛らしい“滑稽”が社会に溢れることを目指す。

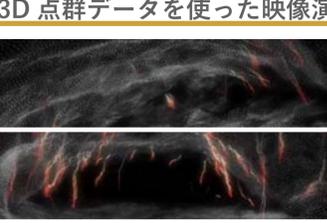
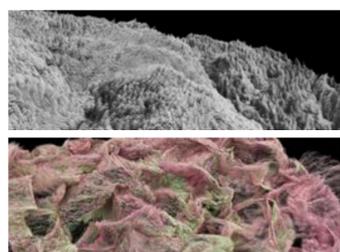
寄席の要素の再構築
 従来の寄席の空間は、高座や屏風、木戸等の要素に分解することができる。そこで都市空間に即興で落ちの場をつくるための操作として、“寄席の要素の建築的再構築”を行う。
 公演を開催する「場所」+上演する「演目」を設計の二軸とし、高座や木戸などの寄席の構成要素を一つずつ構築して空間に挿入していく。



木戸：寄席の入口。日常と落語の世界の結節点。屏風：舞台背景。想像世界を描くキャンパス。高座：落語家上がる舞台。一枚の座布団の上から想像世界を広げていく。棧敷：観客席。特に小上がりで寛ぐ畳席を指す。囃子：落語家の登場時に演奏される三味線の音。開演を知らせ、観客をその世界へ引き込む。提灯：柔らかな光で寄席を彩る伝統的な照明装置。



vol.1 実験公演「愛宕山 一虎ノ門にておちば咲く」
 2024年6月29日（土）開催
 場所：TOKYO NODE LAB
 出演：宴児家喧坊（早稲田大学落語研究会）
 本実験公演では、都市の山脈とも呼べる虎ノ門の一角を舞台に、陽気な山登りの一席『愛宕山』を実演した。高座をなすのは、森の風景を連想させる木組みの構造体。一本の幹の様でもあり木漏れ日の差す木々の様でもある。せり出した極薄板と雲のように浮かぶ座布団は、崖の緊迫感を彷彿とさせる。ゴザや二人掛けスツールなど様々な棧敷を用意することで、観客は主体的に聴き方を選ぶことができる。脚部は木をレシプロカルで組むことで空間を一体として木のノイズで包みこみ、愛宕山の世界へと没入するきっかけを生んだ。



3D 点群データを使った映像演出
 想像力を楽しむ演芸である落語の出囃子に、3D点群データを用いた映像演出を取り入れた。演目のシーンを連想させる風景描写を点の集合で抽象化し映し出すことで観客の脳を刺激し、これから始まる噺への想像力を掻き立てた。さらに津軽三味線の生演奏と融合させることでダイナミックなオープニングを演出し、一瞬で会場を引き込んだ。

おちば
 落語空間おちば
 代表：中山 亘
 watarun0208@icloud.com
 X: @watomayo_archi



WATAMAYO_ARCHI